

第32回街歩き

大人な夜の newName 東京ミッドタウン

2007.8.1

■「光の英雄と犯罪者」をさがせ！

六本木ワンマイル。半径1マイル(約1.6km)に、40を超える大使館と9つのインターナショナルスクールが立ち並び、国立新美術館、森美術館、サントリー美術館が六本木アート・トライアングルを結ぶ。東京ミッドタウンはこの世界の文化と芸術が行き交う今の六本木に、「日本のデザインを世界に発信する拠点」となるべくして現れた。今回の街歩きでは、この新たなランドマークで団員たちがそれぞれに「光の英雄と犯罪者」を探した。彼らが見つけた「光の英雄と犯罪者」はいったいどこに潜んでいたのだろうか。団員たちのレポートを紹介する。

○佐藤陽治団員

全体的な印象としては、大人向けの商業施設らしく調和のとれた照明計画と言える。

最たる光の英雄はギャラリーのインテリアの統一感、中でも照明看板は半透明素地に黒字で色彩的にまとまり感があった。下部に明るさを抑えた電球色蛍光灯が一つ入っており、光のグラデーションがかかって綺麗だ。看板の高さが絶妙で、人の頭で視線を遮られることもなく、廊下の端まで一度に見渡せることができる。さながらヨーロッパのファッションストリートのような。ギャラリーにある大部分の店舗は高級感を出すために、ハロゲンライトや電球色蛍光灯など色温度の低いものが多用されており、それが統一感につながっていた。

2つ目の光の英雄として、吹き抜けの柱の太さを利用した小さなスペースの展示空間を挙げたい。ここでは色温度、輝度がともに高い白色LEDが用いられていた。青白い光が展示されているガラスのオブジェの魅力をさらに引き出している。なおかつ店舗とは違う色温度なため、ここだけがあたかも違う空間として人の視線を引きつける効果があった。全体的に良いといえるのだが、細部をみると、間接照明でありながらクリアランスが小さく光源が露出している部分や、光壁の奇妙なムラ、過剰なダウンライトの数、光天井の光量の多さなど犯罪者はそこかしこに潜んでいた。これには施工時の問題もあるだろうが少し甘さを感じた。やはり照明デザイナーとしては「神は細部に宿る(ミース・ファン・デルローエ)」、この言葉を実行したい。



高層棟に囲まれたプラザ



丸見えの光源

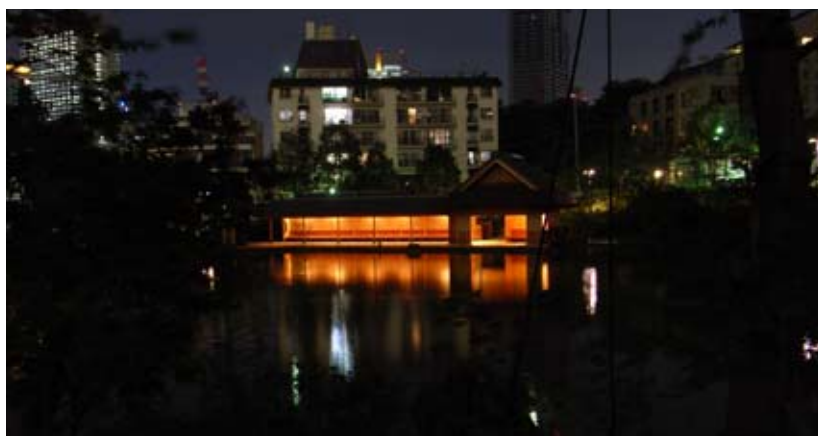


光壁のムラ

○藤井茂紀団員

私にとっての光の英雄は、ミッドタウンの東側に広がる檜町公園の闇である。かつて江戸の名園「清水亭」として名をはせたこの由緒正しい公園は、今もひっそりと闇の中に残っている。和風の休憩所から見る池の水面にはミッドタウンタワーが映りこみ、ミッドタウン側から眺めれば水面には休憩所がひっそりと映りこむ。現代的な高層ビルと伝統的な休憩所の佇まいを映しこむ池と、それを囲む闇が印象的であった。

光の犯罪者は、いくつかの“無駄な眩しさ”だ。気持ちのいい空間であるからこそ照明のディテール処理の荒さに目が行ってしまう。リッツ・カールトン横の歩道橋では木のライトアップが上部を横切る歩行者を直撃しているし、歩道橋の天井をアップライトしている照明器具も隠れきれずに顔を出している。水平面照度が抑えられて間接光が気持ちのいい空間だからこそこういった無駄な眩しさを一掃してほしい。



池に映る休憩所



池に映るタワー

○安田真弓団員

今回の街歩きが初参加です。まず英雄についてですが、地下から地上に上がるエスカレーターの空間は水とあかりの相性の良さを感じました。昼間は自然光が入ってくる空間に夜は月あかりが差し込んだら綺麗だろうな・・と思いました。都会の真ん中・六本木でそれが可能になってほしいものです。もう一つの英雄は緑のオープンスペースで期間限定で開かれていたカフェです。お店が出て、人が集って、楽しそうなお祭りのような雰囲気が好きです。次に犯罪者についてですが、明る過ぎで「こんな照明の数は必要なのだろうか？」と思った所がいくつかありました。ブラザに置かれた彫刻付近は撮影かと思うほど明るく、大人な雰囲気とは言いがたい状態でした。また、建物の周りにたくさんの種類の樹木があつて良かったのですが、夜に光を当てられておらず、残念に思いました。



ギャレリアの共用通路

○古川愛子団員

私が光の英雄として挙げたい点は、水平面を低照度に抑えながら、天井面を間接で照らしたり、鉛直面に面発光のサインを配したりと、照度以上に明るく、空間の広がりを感じさせる光の使い方がされていたギャレリアの共用通路。そして、光の犯罪者にはやはり日本庭園にあふれるグレアの大群だった庭園灯の羅列と巨大な非常用ポールを挙げたい。昼間は何時間でも居たくなるような美しい庭園だけに日が沈むと光がそれを台無しにしてしまうのは非常にもったいない。六本木ヒルズに続いて第二の「六本木のランドマーク」として誕生したミッドタウンは、照明においてもヒルズとは明確な差別化を図ってほしかった。5年ほどのタイムラグがあったにも関わらず、ミッドタウンに新鮮さや発展した技術、オリジナリティーが感じられなかったのが残念。



ミッドタウンをバックに集合写真

第33回街歩き 港街ヨコハマの光

2007.9.28

■横浜夜景探訪

今回の街歩きは久しぶりの横浜でした。参加者は、横浜市・都市デザイン室を中心とした皆さんと探偵団メンバーの合わせて24名です。

まず、横浜市の特別な配慮で、現在一般公開していない横浜マリンタワーの展望台から夜景観察しました。海沿いの工業地帯は、低圧ナトリウム灯のオレンジ色。対して住宅エリアは水銀灯の白色が目立ちます。みなとみらい方面からは大きな光のボリュームとして、ランドマークの光やカラフルな観覧車、スタジアムからの凄まじい投光器の光が届き、方角によって違った表情が見えていました。

水上バスに乗って海からの夜景観察の後には、昨年横浜駅東口にオープンした商業施設『横浜ベイクォーター』まで足をのばし、横浜夜景を満喫しました。懇親会では、横浜市のみなさんにこれからの横浜を垣間見るような貴重な話を聞くことが出来ました。横浜夜景は、より一層ドラマティックになるように考えられているようです。

港町特有の点光源の目立つ夜景といった印象を受けましたが、ランドマークや歴史的建造物がライトアップされ、不要な光が深く排除されたら、横浜夜景からますます目が離せなくなるのではないのでしょうか。

(上田 夏子)

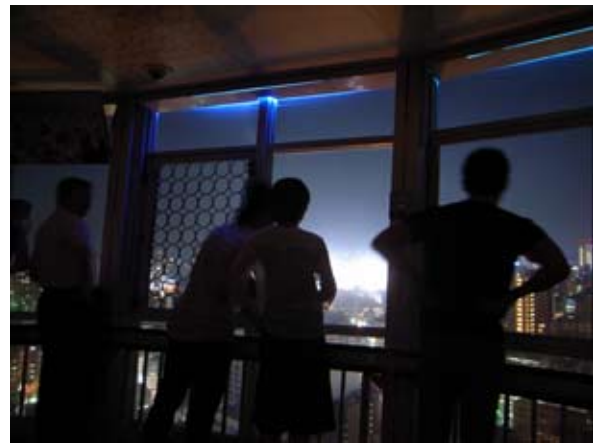


横浜マリンタワー

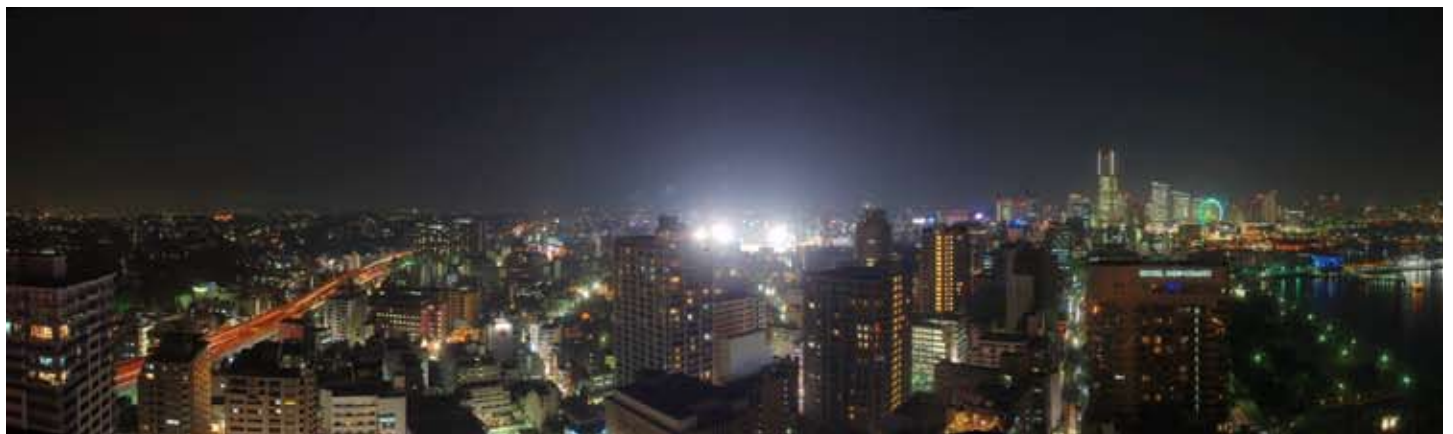
■マリンタワー

横浜港開港100年を記念し1961年に建てられた元祖横浜港のシンボル、マリンタワー。昨年クリスマスに営業終了し、現在は2009年春のオープンを目指した再生事業の最中である。今回は、そんな閉鎖中のマリンタワーに照明探偵団が踏込んだのである。ブラックライトで演出されたエレベーターが上昇した先、地上100メートルにある2層式展望台には360度の夜景が広がっていた。0.5lx(床)の暗い展望室は夜景観察にはもってこいだ。ぐるっと一周展望室を歩くと、横浜の様々な夜の個性が目飛び込んでくる。貨物埠頭のオレンジの光、その中で際立つベイブリッジの青色ライトアップ、埠頭のオレンジに照らされたような黄土色の月、対岸には高層ビル群の白いきらめき、景色を横切る首都高速、ビルの隙間から顔をのぞかせる中華街の明かり・・・この光のコンビネーションこそが横浜の夜であり、全景を織り成す個性豊かな光それぞれが英雄なのだ、というように寛大な気持ちになってしまう。その中であって、どうしても英雄になりえないのがスタジアムから夜空に放たれる膨大な光ではあるが。

(藤井 茂紀)



横浜スタジアムの凄まじい投光器の光



横浜夜景パノラマ① みなとみらい方面



水上バスからみなとみらい方面を望む

■水上バス

水上バスは、山下公園を出航し、みなとみらいへ。探偵団一行は、船上というちょっとした非日常に、おおいにはしゃいだ。

岸からどのくらい離れたらう。気付くと夜景が大パノラマとなって目に映った。色々な要素の光が目飛び込んでくる。遠く地平線に浮かぶ光の粒は、ペイブリッジ、大棧橋客船ターミナルのリニアな光とつながり、さらに桜木町の高層ビル群の演出されたスカイラインで頂点となっていた。それらを動かす歯車のように、巨大な観覧車がサイケデリックな色彩で花開きながら回転していた。

ナトリウムランプによって、その名の通り赤面している赤レンガ倉庫は、背景の白濁した空と対比して特異な存在に思えた。偶然にも宙に顔を出した満月は、光る街と寄り添うようにたたずんでいた。そして、地上の一連の光は、揺らぐ海面にはじき返されてじっとしていない。それが夜景をより絵画的にさせていた。港街・横浜に特有の夜景は船上にこそあるのではないかと思うのだった。

(服部 祐介)



水上バスに乗り込む団員

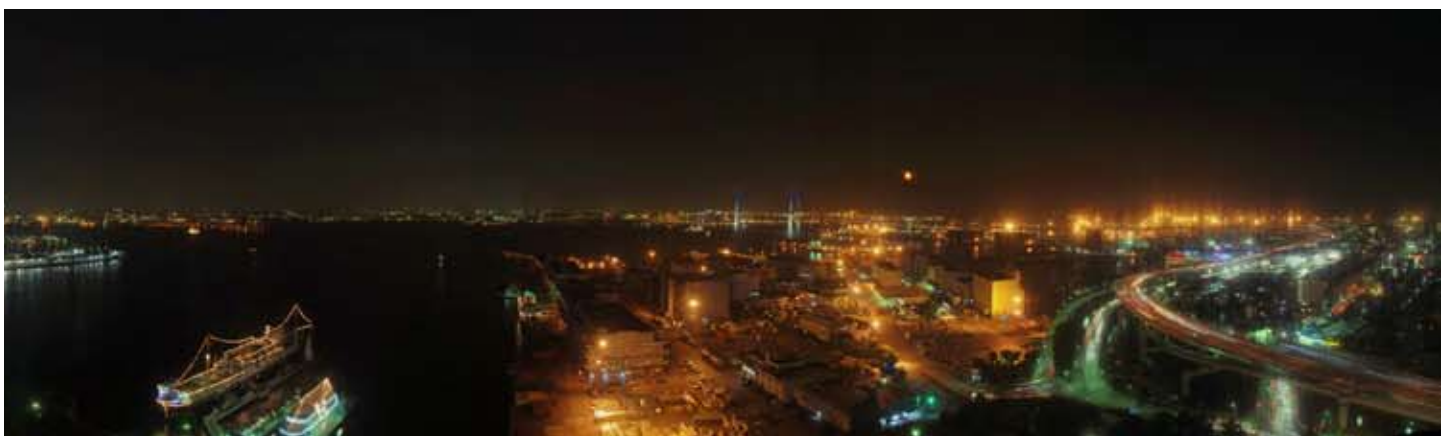
■横浜ベイクォーター

横浜駅東口のポートサイド地区に位置する横浜ベイクォーター。以前は横浜駅東口というと、目の前に国道が走り、交通量は多いものの、そごうデパートがあるだけの少し寂しい場所感じていました。昨年オープンした横浜ベイクォーターはこんな閑散としたエリアに賑わいを与えるとともに、海、国道、駅からの容易なアクセスが横浜だけではなく、いろいろなエリアの人を呼び寄せているのだと感じられました。建物としては各フロアともに屋内から外へ出れば、運河沿いを夜景観察しながら回遊できる動線となっていました。特にメイン広場では多くのカフェやレストランがテラスにテーブルを並べ、みなとみらいの夜景を楽しみながらのディナーはとても優雅で贅沢な時間を過ごしている様に見えます。しかし残念なことに、みなとみらいの高層マンション建設が進み、横浜を代表する夜景が少し隠されてしまっていました。この高層マンションが横浜の夜景を壊す犯罪者となるか、または新たな夜景を創る英雄となるのか、完成するのが少し楽しみです。

(久保 隆文)



ベイクォーターにて集合写真



横浜夜景パノラマ② 横浜ペイブリッジ方面

【照明探偵団の活動は以下の 20 社にご協賛頂いております。】

ルートロンアスカ株式会社
岩崎電気株式会社
カラーキネティクス・ジャパン株式会社
松下電工株式会社
ヤマギワ株式会社
山田照明株式会社
マックスレイ株式会社
ニッポ電機株式会社
エルコライティング株式会社
ウシオライティング株式会社
株式会社フィリップスエレクトロニクスジャパン
トキ・コーポレーション株式会社
東芝ライテック株式会社
大光電機株式会社
コイズミ照明株式会社
マーチンプロフェッショナルジャパン株式会社
ルイス ポールセン ジャパン株式会社
株式会社遠藤照明
湘南工作販売株式会社
株式会社ウシオスペックス

